

【引受保険会社】



〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

変額保険

グローバルミックス

四半期運用レポート

2015年1月～2015年3月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ALM & 特別勘定運用部が行います。)	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募)	
債券 50%			

※ 特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート (2015年1月～2015年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2015年1月～2015年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前期末比+9.63%上昇の1,543.1ポイントで終了しました。

1月、原油価格下落に伴いリスク回避の動きが出たことなどにより下落しましたが、ECB(欧州中央銀行)が追加金融緩和を決定したことなどにより上昇しました。2月から3月下旬にかけては、企業業績の改善やギリシャへの金融支援延長の合意などを受けて大きく上昇しましたが、期末は下落に転じた後、米国のヘルスケア業界の合併・買収動向などを背景に、米国株式が反発したことなどにより、上昇して期を終えました。

業種別(東証33業種)では、配当利回り水準が高い「医薬品」(前期末比+23.49%)が最も上昇した一方、原油価格下落から「石油・石炭製品」(同△1.14%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、1月、原油価格の下落やECBが追加金融緩和を決定したことなどから、揉み合いながらも下落しました。2月は、FRB(米連邦準備制度理事会)議長の議会証言で、利上げの時期を慎重に見極めるとの認識が示されたことなどから、大幅に上昇しました。3月は、利上げ観測を巡り、揉み合いながら推移しました。NYダウは、前期末比△0.26%下落の17,776.12ドルで終了しました。

欧州株式市場は、1月から2月にかけて、ECBによる追加金融緩和が市場の期待に応える規模であったことや、ギリシャへの金融支援延長合意などから大きく上昇しました。3月は、ユーロ安を受けて輸出関連株などが買われたことなどにより、独・仏株式市場は堅調に推移する一方、英株式市場は市場最高値を更新しつつも、その後は下落基調で推移しました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比+3.15%上昇、仏CAC40は同+17.81%上昇、独DAXは同+22.03%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、1月、原油価格の下落などにより、金利は低下(価格は上昇)しましたが、2月中旬にかけて、堅調な株価や米国の良好な雇用統計などから、上昇(価格は下落)しました。3月末にかけて、米国の利上げ観測や国債入札結果を巡り、揉み合いで推移しました。新発10年国債利回りは0.400%となりました(前期末は0.330%)。

日銀はマネタリーベースが年間約80兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、1月、原油価格の下落やECBの追加金融緩和などを受けて、金利は大幅に低下(価格は上昇)しました。2月は、株式市場が上昇したことなどにより上昇(価格は下落)した後、米国の利上げを巡る思惑の違いなどから、小幅な揉み合いで推移しました。3月は、2月の雇用統計が順調な回復を示し、早期利上げが意識されたことなどから上昇しましたが、FOMC(米連邦公開市場委員会)の結果を受けて、利上げペースが緩やかとなる可能性が意識されたことなどから、低下基調で推移しました。米10年国債利回りは1.923%となりました(前期末は2.171%)。

欧州債券市場は、1月、スイス中央銀行が対ユーロで無制限介入を突如終了するとともに、利下げを決定したことなどを受けて、低下(価格は上昇)基調で推移しました。2月は、ギリシャの債務問題を巡り、横ばいで推移しました。3月は、ユーロ圏の景気指標の改善などから上昇(価格は下落)する場面もありましたが、ECBの資産買入れ開始などを受けて低下基調で推移しました。独10年国債利回りは0.180%となりました(前期末は0.541%)。

FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0～0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年0.05%を維持しました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、1月、米国長期金利の低下などを背景に円高が進行した後、ギリシャ債務問題などにより揉み合いで推移しましたが、3月中旬にかけて、米国の良好な雇用統計などにより、米国の早期利上げ観測が高まったことなどから円安が進行しました。その後、FOMCの結果を受けて、米国の利上げペースが緩やかになる可能性が意識されたことなどにより、円高基調となりましたが、期末にかけて、投資家のリスク回避姿勢が緩んだことなどにより円安となりました。期を通して見ると、円は対ドルで前期末比38銭円高ドル安の1ドル=120円17銭となりました(前期末比△0.32%下落)。

ユーロ/円相場は、1月、スイス中央銀行によるスイス・フラン上限撤廃や、ギリシャ総選挙結果などを受けて円高が進行しました。2月は、ギリシャの債務問題を巡り、横ばいで推移しました。3月は、ECBの量的金融緩和を背景に円高が進行した後、好調なドイツの景況感指標などを背景に、揉み合いで推移しました。期を通して見ると、円は対ユーロで前期末比16円22銭円高ユーロ安の1ユーロ=130円32銭となりました(前期末比△11.07%下落)。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

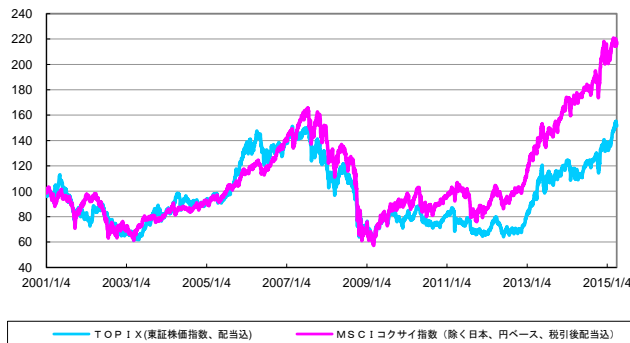
お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

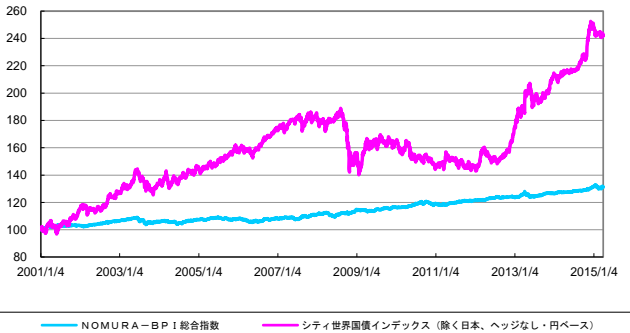
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

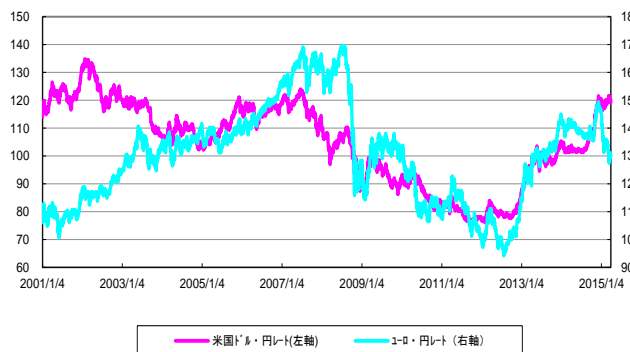


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

変額保険

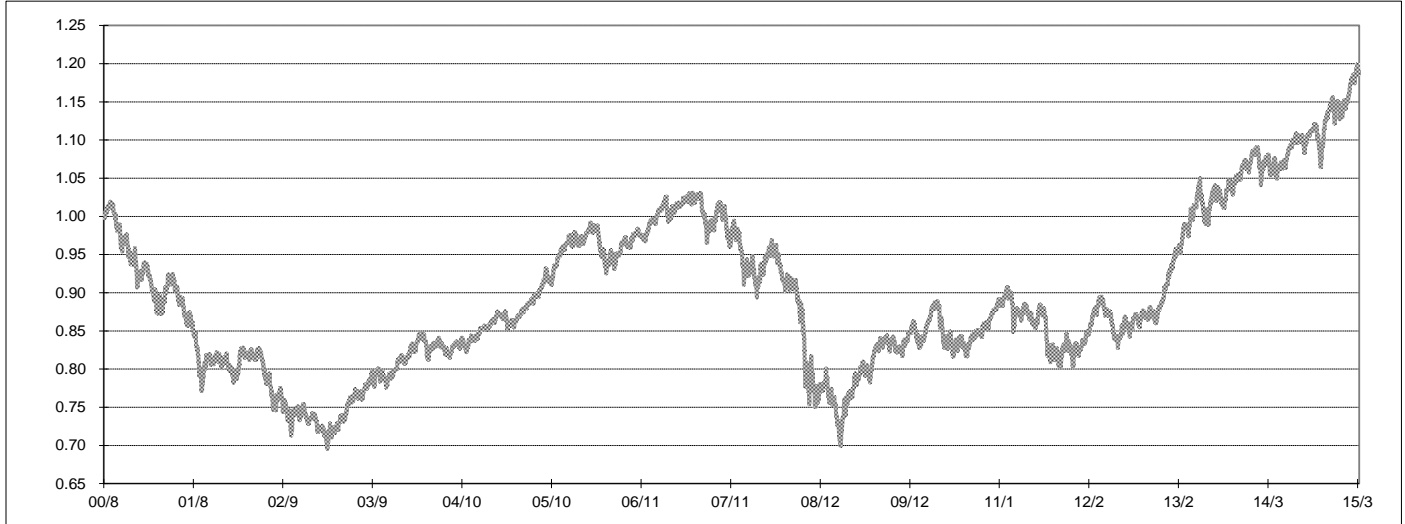
特別勘定の四半期運用レポート (2015年1月～2015年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2015年3月 末日現在]

■特別勘定のINDEXの推移

※ 特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2015年3月末	2015年2月末	2015年1月末	2014年12月末	2014年11月末	2014年10月末
INDEX	1.189	1.182	1.147	1.148	1.146	1.115
騰落率(%)	過去1ヵ月 0.64	過去3ヵ月 3.60	過去6ヵ月 6.70	過去1年 11.28	過去3年 33.78	設定来 18.93

※ 特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

※ 騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	1,964,660	4.3
その他有価証券	43,370,286	95.7
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	4,864,840	10.7
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B)	7,290,832	16.1
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	6,652,827	14.7
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	4,899,849	10.8
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	19,661,937	43.4
合計	45,334,946	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。

資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)

今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

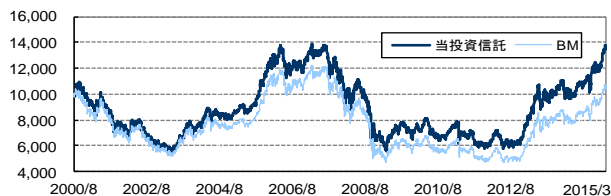
特別勘定の四半期運用レポート (2015年1月～2015年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2015年3月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	2.13%	11.24%	18.35%	31.60%	87.98%	34.67%
BM	1.26%	9.63%	16.35%	28.28%	80.62%	4.08%
差	0.87%	1.61%	2.00%	3.32%	7.36%	30.59%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額となります。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 電気機器	13.35%
2 輸送用機器	12.09%
3 銀行業	8.54%
4 化学	7.96%
5 情報・通信業	6.95%
6 小売業	6.69%
7 医薬品	5.28%
8 卸売業	5.15%
9 その他業種	32.11%
10 現金等	1.89%
合計	100.00%

○ 市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	98.11%
2 現金等	1.89%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	5.23%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.15%
3 日本電信電話	情報・通信業	2.10%
4 KDDI	情報・通信業	2.06%
5 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.00%
6 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.59%
7 ソフトバンク	情報・通信業	1.46%
8 本田技研工業	輸送用機器	1.42%
9 アステラス製薬	医薬品	1.39%
10 東海旅客鉄道	陸運業	1.14%
合計		21.53%
組入銘柄数		259銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+11.24%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+9.63%となりました。当四半期の日本株式市場は、配当利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた小売が上昇したことや少なめに保有していた建設が下落したことはプラスに寄与しました。一方個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたコーナン商事(7516)やセイコーエプソン(6724)が下落したことはマイナスに寄与しましたが、多めに保有していたフォスター電機(6794)やゲオホールディングス(2681)が上昇したことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「1～4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

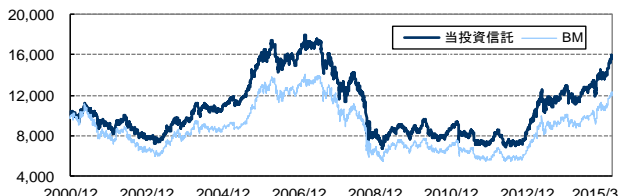
特別勘定の四半期運用レポート (2015年1月～2015年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2015年3月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.38%	10.58%	17.46%	32.36%	84.42%	56.11%
BM	1.26%	9.63%	16.35%	28.28%	80.62%	19.68%
差	1.12%	0.95%	1.12%	4.08%	3.80%	36.43%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 電気機器	12.96%
2 輸送用機器	12.51%
3 化学	10.96%
4 情報・通信業	8.09%
5 銀行業	7.95%
6 小売業	6.55%
7 医薬品	6.24%
8 卸売業	4.31%
9 その他業種	28.63%
10 現金等	1.82%
合計	100.00%

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	95.71%
2 その他の市場	1.88%
3 ジャスダック証券取引所	0.32%
4 東京証券取引所第二部	0.27%
5 名古屋証券取引所第一部	0.01%
6 現金等	1.82%
合計	100.00%

○組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	5.17%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.60%
3 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.51%
4 日本電信電話	情報・通信業	2.29%
5 KDDI	情報・通信業	2.20%
6 キヤノン	電気機器	2.19%
7 アステラス製薬	医薬品	2.02%
8 日産自動車	輸送用機器	1.82%
9 東海旅客鉄道	陸運業	1.79%
10 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.75%
合計		25.33%
組入銘柄数		140銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+10.58%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+9.63%となりました。当四半期の日本株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた総合商社やREITが下落したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたセイコーエプソン(6724)が下落したことや少なめに保有していたエーザイ(4523)が上昇したことはマイナスに寄与しましたが、多めに保有していたディー・エヌ・エー(2432)や旭硝子(5201)が上昇したことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「1～4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

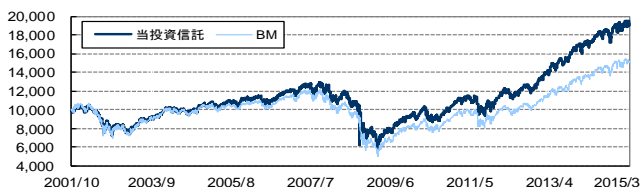
特別勘定の四半期運用レポート (2015年1月～2015年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2015年3月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

投資信託	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲1.04%	▲0.29%	5.44%	12.73%	58.78%	92.81%
BM	▲1.20%	▲0.30%	5.27%	11.95%	47.41%	52.27%
差	0.17%	0.01%	0.16%	0.78%	11.38%	40.54%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数²(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)〈適格機関投資家私募〉

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 医薬品・バイオテクノロジ	12.15%
2 ソフトウェア・サービス	10.09%
3 テクノロジー・ハードウェア	7.36%
4 エネルギー	6.85%
5 資本財	5.51%
6 保険	5.43%
7 小売	5.19%
8 銀行	5.13%
9 その他業種	42.07%
10 現金等	0.21%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	4.85%
2 JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジ	2.36%
3 PFIZER INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジ	2.05%
4 JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	2.00%
5 EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	1.77%
6 MERCK & CO INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジ	1.53%
7 GILEAD SCIENCES INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジ	1.42%
8 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.41%
9 INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	1.38%
10 GOOGLE INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.34%
合計			20.12%
組入銘柄数			236銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比▲0.29%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前四半期末比▲0.30%となりました。当四半期の米国株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたコンピューターや保険が上昇したことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたエネルギーのValero Energy Corpやヘルスケア機器・サービスのBoston Scientific Corpが上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた半導体・半導体製造装置のMicron Technology Incやテクノロジー・ハードウェアおよび機器のHewlett Packard Coが下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

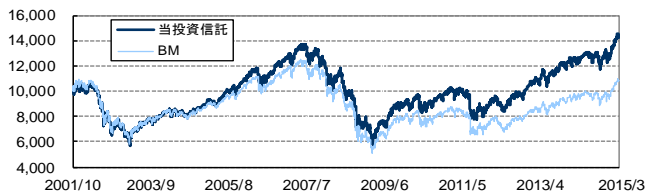
特別勘定の四半期運用レポート (2015年1月～2015年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2015年3月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.78%	11.23%	13.84%	15.59%	56.53%	44.46%
BM	2.21%	11.11%	12.24%	12.89%	41.56%	8.37%
差	0.57%	0.13%	1.59%	2.70%	14.96%	36.09%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数³(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・欧州株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 国別構成比率

順位	国名	マザーファンド
1	イギリス	27.75%
2	フランス	15.27%
3	ドイツ	14.58%
4	スイス	12.45%
5	オランダ	6.51%
6	スペイン	4.88%
7	スウェーデン	4.51%
8	イタリア	2.94%
9	その他の国	10.48%
10	現金等	0.63%
合計		100.00%

○ セクター別構成比率

順位	セクター	マザーファンド
1	医薬品・バイオテクノ・ライフ	12.27%
2	食品・飲料・タバコ	11.18%
3	銀行	10.93%
4	保険	9.16%
5	資本財	7.18%
6	素材	6.97%
7	電気通信サービス	5.46%
8	エネルギー	5.33%
9	その他業種	30.89%
10	現金等	0.63%
合計		100.00%

○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	2.54%
2	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.29%
3	SANOFI	フランス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.28%
4	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.19%
5	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.04%
6	BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	食品・飲料・タバコ	2.03%
7	SIEMENS AG	ドイツ	資本財	1.77%
8	ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.70%
9	ALLIANZ SE-REG	ドイツ	保険	1.63%
10	BAYERISCHE MOTOREN WERKE AG	ドイツ	自動車・自動車部品	1.40%
合計				19.87%
組入銘柄数				208銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+11.23%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は前四半期末比+11.11%となりました。当四半期の欧州株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた銀行や石油メジャーが下落したことはプラスに寄与しました。国別では下落したイギリスの銘柄を多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、多めに保有していた銀行のHsbc Holdings Plc(イギリス)が下落したことはマイナスに寄与しましたが、多めに保有していた食品・生活必需品小売りのDelhaize Group Sa(ベルギー)が上昇したことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

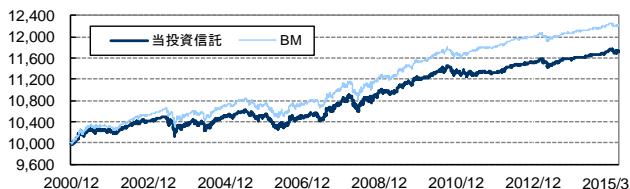
特別勘定の四半期運用レポート (2015年1月～2015年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2015年3月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲0.20%	▲0.32%	0.37%	0.86%	2.95%	17.13%
BM	▲0.24%	▲0.40%	0.32%	0.76%	2.88%	22.02%
差	0.04%	0.07%	0.05%	0.10%	0.07%	▲4.89%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合⁴、中期3年以上7年未満)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	4.59年	97.05%
国債	5.74年	59.96%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	1.24年	2.70%
金融債	0.00年	0.00%
社債等	2.84年	34.38%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等*	0.08年	2.95%
合計	4.45年	100.00%

* 債券先物を含みます。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○ 公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	75.19%
A	21.12%
BBB	3.69%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

※ 海外格付機関の格付を優先します。

※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付を採用します。

○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第303回利付国債(10年)	日本	1.400%	2019年9月20日	A1	AA-	7.95%
2	第326回利付国債(10年)	日本	0.700%	2022年12月20日	A1	AA-	6.05%
3	第335回利付国債(10年)	日本	0.500%	2024年9月20日	A1	AA-	5.66%
4	第330回利付国債(10年)	日本	0.800%	2023年9月20日	A1	AA-	5.41%
5	第305回利付国債(10年)	日本	1.300%	2019年12月20日	A1	AA-	5.10%
6	第322回利付国債(10年)	日本	0.900%	2022年3月20日	A1	AA-	4.62%
7	第5回新韓銀行円貨社債(2014)	韓国	0.390%	2017年11月13日	A1	A	3.07%
8	第315回利付国債(10年)	日本	1.200%	2021年6月20日	A1	AA-	2.81%
9	第298回利付国債(10年)	日本	1.300%	2018年12月20日	A1	AA-	2.76%
10	第112回利付国債(5年)	日本	0.400%	2018年6月20日	A1	AA-	2.67%
合計							46.08%
組入銘柄数							52銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比▲0.32%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス(総合、中期3年以上7年未満)は前四半期末比▲0.40%となりました。当四半期の当投資信託は前四半期からの戦略を維持し、ベンチマークを上回る結果となりました。超長期国債入札は低調な結果に終わり、また日銀の量的緩和によって流動性が低下している為に、当四半期末の10年国債利回りは前四半期末比0.070%上昇の0.400%となりました。

委託会社は、日銀の量的金融緩和策を背景にして、日本国債利回りは低位で推移すると予想しています。今後の当投資信託の方針として、デュレーション戦略ではしばらくベンチマーク並みの水準とし、種別戦略ではベンチマーク対比での少なめの配分になっている国債の組入れをさらに減らして、多めに配分している非国債の組入れをさらに増やす方針です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

○ ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	0.24%
平均クーポン	1.03%
平均残存期間	4.57

※ 「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下株東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は株東京証券取引所が有しています。
株東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

○変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて

①市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>